



名古屋工業大学男女共同参画推進センター ニュースレター

Vol.3

2015.12

発行 名古屋工業大学男女共同参画推進センター 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
TEL | 052-735-6121 URL | <http://www.nitech.ac.jp/gender/>

CONTENTS

1. REPORTS 7～10月の活動報告
2. ACTIVITIES
ものづくり企業における女性技術者リーダー養成塾
男女共同参画推進センターのロゴが完成
女性研究者研究活動支援事業「中間報告シンポジウムを開催
科学英語論文書き方セミナーを開催
女性が拓く工学の未来賞授賞式を実施
3. FEATURE
女性が拓く工学の未来賞
優秀賞：吉田奈央子先生、奨励賞：前野万也香さん
4. INFORMATION
5. 彩綾～SAYA～だより

REPORTS 7～10月の活動報告

7 July

[14日]
名古屋工業大学女性研究者表彰「女性が拓く工学の未来賞」実施要項制定

[21日]
ものづくり企業のための「女性技術者リーダー養成塾」を開催

8 August

[3日]
「科学英語論文書き方セミナー」を開催

[4日]
オープンキャンパスに参加



彩綾～SAYA～の学生8名とともに、高校生や保護者のみなさんの質問を受付けました。

12名の女子高校生と保護者の方が来訪し、受験勉強や学科選択、将来の就職先に関するだけでなく、学校生活に関してもたくさん質問が寄せられました。

9 September

[11日]
ヴェロニク・ガヴァヌーア オックスフォード大学教授が来訪



ガヴァヌーア先生を招聘した未来材料創成工学専攻の柴田哲男研究室の主催で、学部生・大学院生・教員を対象とする講演会も開催されました。こうした講演の他、本学の男女共同参画推進の一助になればという柴田教授の取り計らいで、男女共同参画推進センター長との面談も実現しました。ガヴァヌーア先生は、とにかく自分が好きな研究を見つけて精一杯それを楽しみ、その研究をさらに花開かせるために、活躍の場を求めることを絶対に諦めないことの大切さを説かれました。

10 October

[3日]
女子学生のためのテクノフェスタに彩綾～SAYA～の学生4名と参加



[21日]
「平成27年度女性が拓く工学の未来賞」表彰式開催

[27日]
ものづくり企業のための「女性技術者リーダー養成塾」卒業式を開催

[28日]
女性研究者研究活動支援事業（一般型）中間報告シンポジウムを開催

9 September

[3日]
愛知県副知事（堀井奈津子氏）表敬訪問

[10日]
JICA 草の根支援事業「フィリピンのボホール州トゥピゴン市における予防／準備／対応／復旧に関する防災能力向上プロジェクト」での日本国内研修一行来訪

[11日]
工業会東京支部からOBが来訪

ACTIVITIES

ものづくり企業における女性技術者リーダー養成塾

イーブルなごや（名古屋市 男女平等参画推進センター・女性会館）指定管理者アイ・コニックグループおよび当センターが主催となって、「女性技術者リーダー養成塾」を開講しました。当塾では、製造業に勤めている意欲的な女性技術者を対象に女性技術者がリーダーとして活躍するために必要なスキルを学ぶとともに、それぞれのキャリアデザインをともに考える機会となるよう、キャリア・コンサルタントやものづくり専門講師による講座を7月～10月にわたり、全8回を開講しました。

第1回	入塾式・オリエンテーション 特別講演会「女性の力を経営に活かすには」 経営戦略としての女性活躍推進 高松和子氏（(公財)21世紀職業財団業務執行理事兼事務局長） 「経営は人を活かすこと」 濱田恵美子（名古屋工業大学大学院教授）	
第2回	男女平等講座「職場における男女平等」 小倉祥子氏（南山女学院大学准教授） キャリアデザイン講座1 市川麻波氏（2級キャリア・コンサルタント）	
第3回	ロールモデルとの座談会 中野裕美氏（豊橋技術科学大学大学院教授・学長補佐） 山和紀久子氏（トヨタ自動車株式会社グローバルデザイン企画部主幹） キャリアデザイン講座2 市川麻波氏（2級キャリア・コンサルタント）	
第4回	リーダー養成講座 ～「品質」をテーマにもものづくりのマネジメントを考える～ 仁科健（名古屋工業大学大学院教授）	
第5回	～「ボカミス」をテーマにもものづくりの安全を考える～ 神田幸治（名古屋工業大学大学院准教授）	
第6回	～「こころ」をテーマにもものづくりの職場を考える～ 鷲見克典（名古屋工業大学大学院教授）	
第7回	キャリアデザイン講座3 「ストレスマネジメント」「効率的な時間の使い方」など 市川麻波氏（2級キャリア・コンサルタント）	
第8回	卒業式・報告会（修了証授与・行動宣言） 特別講演会「女性技術者への期待」 世界の女性エンジニア達 西村今日子氏（森益工業株式会社取締役） 経営に活かす女性の力 西岡慶子氏（株式会社光機機製作所代表取締役社長）	

参加企業 株式会社アイサク、エイベックス株式会社、株式会社 アンソー、KTX 株式会社、共和産業株式会社、株式会社セキソー、日本特殊陶業株式会社、ホーユー株式会社、ブラザー工業株式会社、フタバ産業株式会社、トヨタ紡織株式会社、ナブテスコ株式会社、日東電工株式会社、林テレンプ株式会社（順不同）

キャリアデザイン講座では、自己分析を通して自分自身を見つめ直し、自身のキャリアの実現を考える内容で、「自分が働くことについて、深く考え、見直し、想像することができた」などの声が聞かれました。また、ロールモデルとの座談会では、現場での生の声や、経験談が聞ける貴重な機会となりました。リーダー養成講座では、実際に自身の業務に関わる内容も多く、「経験のない学生時代ではなく、今聞けてよかった」や「グループワークを参考に若手の教育に取り入れたい」といった声が聞かれました。

受講生のみなさんの今後の活躍に期待いたします。



主催者からのコメント

■塾長

名古屋工業大学大学院教授
男女共同参画推進センター長
藤岡伸子



ものづくりに求められる価値が、量から質へ、速さからゆとりへ、大きさから繊細さへと大きく変わりつつある今、女性技術者リーダーに技術革新の担い手として大きな期待が寄せられています。皆さんの躍進を後押ししながら、ものづくりの新しい姿を共に模索したいと思います。

■副塾長

名古屋工業大学大学院教授
工場長養成塾塾長
仁科健



本講座は東海地区における中堅・中小企業の次世代工場長の教育に実績を持つ名古屋工業大学工場長養成塾が協力します。受講する女性技術者の方々のものづくりにおけるマネジメントスキルの向上に少しでもお役に立つことができればと思っています。

■事務局長

イーブルなごや
指定管理者アイ・コニックグループ
代表 伊藤克恵



名古屋市男女平等参画推進センター・女性会館である「イーブルなごや」は、あらゆる場面で女性が男性と同等に活躍できる社会になることを願っています。女性技術者リーダー養成塾では、素敵な仲間との出会いをお手伝いできればと思います。

ACTIVITIES

男女共同参画推進センターのロゴが完成

多数の案の中から、本学建築・デザイン工学科3年津葉井一紀さんと同4年齋藤琢磨さんによるデザインのロゴが選ばれました。

このロゴは、男女が背中合わせに座っている様子を、「男女共同参画=gender equality」の頭文字g, eに見立てたデザインです。



男女の性差による優劣はありません。互いの違いを個性として認め合い、共に創り上げていく未来こそが、今後の社会のあるべき姿なのではないかと考えました。

また、このロゴでは、男

女が寄り添い明るい未来へ進んでいく姿を、やわらかな形と色合いで表現し、名工大ブルーだけでなく色の展開を持たせることで、様々な場面で活用できるように工夫しました。

(津葉井一紀さん)



ACTIVITIES

女性研究者研究活動支援事業「中間報告シンポジウム」を開催

10月28日(水)、女性研究者研究活動支援事業(一般型)の中間報告シンポジウムを開催しました。学内外教職員、学生を始め、約70名が参加しました。

本センター長藤岡伸子教授の司会進行のもと、鶴飼裕之学長の挨拶で開会し、はじめに「第1回女性が拓く工学の未来賞」を昨年度受賞した小幡亜希子准教授にセラミックバイオマテリアルに関する研究を紹介いただきました。その後、男女共同参画推進センターの乙部由子統括コーディネーターがこれまでの事業の進捗を報告しました。

続いて日本大学生産工学部野呂知加子教授に「工学系女子学生を増やし、女性エンジニアを育てよう!~日本大学のキャリアウェイモデル~」という演題で日大の取組と現状について講演いただきました。日大では、次世代女性研究者育成として、女性の学生の入口(理系選択)から出口(理系大学院進学から女性研究者への道)までをサポートし、さらに女性研究者の増加と地位向上のため、研究補助者の配置やネットワーク形成促進などを行っている旨をお話いただきました。



その後、増田理子准教授の司会のもと、本学副学長の江藤修教授、株式会社環境アセスメントセンター代表取締役の河合恒一氏、トヨタ自動車グローバルデザイン企画部主幹の山和紀久子氏をパネリストに迎え、パネルディスカッションを行いました。

江藤副学長は教育者の視点から、創造される価値に意味があるのであって「性」が価値を生み出すのではないことを説

かれ、また、女性と男性が共に未来のビジョンを共創していく社会を、教育を通じて作り上げる意識の醸成が、女性エンジニアの育つ土壌を確かにする鍵であるとししました。

河合氏からは、夫婦での一括採用の試みなど、女性技術者のライフイベントと仕事の両立を積極的に図っている様子や、一人ひとりの持ち味を活かす取組が紹介されました。山和氏からは、結婚、出産、育児といったライフイベント期に、どのようにして仕事と両立したかという自身の経験談の他、本人だけでなく周りを取り込んで成果を出せる働き方を実現させるためのトヨタの取組が紹介され、男性も女性も、共に意識を変えていこうとの呼びかけもなされました。

質疑応答では、女性研究者から、「女性支援」という言葉に対し、「女性の優遇ととらえられやすく、逆に違和感を覚える」という発言が出されたことに対し、江藤副学長は、これまでの日本の慣習からしてまだ女性支援の必要性が周知されていないところへの発信であると述べられました。また、女性研究者たちからは、決して女性の優遇を望んでいるのではなく、女性も能力を十分発揮できる研究環境の整備こそが望まれるとの声も上がりました。



ACTIVITIES

科学英語論文書き方セミナーを開催

2015年8月3日 10:30～14:30(休憩1時間含む) 小野義正先生(理化学研究所客員主管研究員)による、科学英語論文書き方セミナーを開催し、教職員16名、学生42名に参加いただきました。

午前の部では、「英語の発想法と論文執筆の鉄則」と題した講義が行われ、日本語と英語の構造の違いや英語で論文を書くときの論理の組み立て方に関して大きな学びを得ることができました。

また、午後の部では、「英語論文の作文技術と文法事項」と題した講義が行われ、論文執筆の際に注意すべき冠詞や前置詞の使い方など、すぐに実践できるテクニックを多く学ぶことができました。

参加者からは、「英語と日本語の発想が根本的に違い、それが英文解釈にどう影響するのがよくわかった。」「英語論文



を書く際の心得をご教示いただき、大変参考になった。」「豊富な具体例をもとに、細かい注意点を事例で学べて大変わかりやすかった。」等の前向きな意見を多数いただきました。



なお、小野先生の著書である『ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方』(2001, 丸善)、『ポイントで学ぶ英語口頭発表の心得』(2003, 丸善)、『ポイントで学ぶ国際会議のための英語-英文手紙、論文投稿、訪問、メール、電話-』(2004, 丸善)、『本当に役立つ科学技術英語の勘どころ』(2007, 日刊工業新聞社)、『ポイントで学ぶ科学英語の効果的な書き方』(2008, 丸善)を本学図書館や当センターに順次ご用意させていただく予定です。今回のセミナーに残念ながらご参加いただけなかった方は、ぜひご利用ください。

ACTIVITIES

女性が拓く工学の未来賞の表彰式を実施

女性が拓く工学の未来賞は、優れた研究業績を挙げることが期待される名古屋工業大学の若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、これにより本学の男女共同参画の推進に資することを目的として、平成26年度に創設いたしました。

本学で研究活動を実施している若手女性研究者(本学大学院に在学する者を含む)で、女性研究者のロールモデルとして期待されると所属長、指導教員等から推薦された方から、「優秀賞」と「奨励賞」各一名を選定します。「優秀賞」は学術上優れた研究成果を挙げ、工学における女性研究者の社会的フ

レゼンス向上に貢献したと認められる方、「奨励賞」は学術上優れた研究成果を挙げることが期待される方としています。原則として毎年度受賞者を表彰し、副賞を授与いたします。

本年度は、優秀賞として吉田奈央子先生(若手研究イノベーター養成センターテニュアトラック助教)、奨励賞として前野万也香さん(共同ナノメティシニング科学専攻 博士後期課程3年)が受賞し、10月21日に表彰式を行いました。

この賞を通じて本学女性研究者の活躍を広く内外に知っていただくことで、女性研究者の存在感が高まると共に、女子学生が将来研究者としての進路を考えるきっかけになることを期待しています。



FEATURE

女性が拓く工学の未来賞 優秀賞 吉田奈央子先生

吉田奈央子先生は、環境微生物分野において、有機ハロゲンを選元する脱ハロゲン化呼吸微生物研究、導電性炭素を用いた微生物の電気化学的な代謝制御研究、また水環境の物質循環に果たす微生物機能研究において優れた実績を有しています。本学着任以降は導電性炭素を微生物担持性の電極として用い、有機物の微生物による酸化反応で生じた電子を従来の曝気酸素に代わり電流として電極に回収する排水処理技術の開発に取り組み、今後さらなる活躍が期待できる研究者です。

優秀賞の受賞、おめでとうございます。

推薦頂いた時は、恐縮だと思いつつ同時に、名工大には女性の若手研究者が少ないので、受賞しないとまずいだらうとも思いました。受賞が決まった時には、安堵しました。

これまで様々な機関で研究活動を行っていますね。

進んで様々な大学を渡り歩いたというよりは、研究を続けるためのポストを得るためや、家族と同居できる環境を求めた結果です。これまで、出産や育児のために、研究者としてのキャリアを諦めた方を多く見てきましたが、とてももったいないことだと思います。私は、どちらも諦めたくはありませんでしたので、家庭や職場に迷惑をかけながらも、仕事と育児を両立できる公募に応募し続けました。学術振興会特別研究員やテニュアトラック助教の場合、出産・育児の期間があってもその分研究期間を延長できますので、私自身も学術振興会特別研究員の間に産後をし、育児休暇を取得しました。その後もテニュアトラック助教として自分の裁量で研究ができており、周囲の目を窺うことなく研究と育児が両立できていると思います。

研究活動を続けてきて、苦勞したことはありますか。

夫は企業に勤めており、互いの職場が遠いために別居する期間が長くありました。特に子供と二人で暮らしている時期は、仕事と育児の時間配分にも苦勞をしましたし、そこまでして仕事をする意味があるの？と問われることも多くあり、仕事をするときには家族に対して、家庭では研究者としての自分に罪悪感を感じ

ていました。同じフロアで多くの男性の中で仕事をしているときに、マイノリティ（女性）であるというだけで目立つことに戸惑いネガティブになったり、その反動で虚勢を張って無理をして頑張ってしまうこともありました。いわゆるインポスター症候群と自己肯定を行ったり来たりしていたように思います。しかし、あるとき、シュリル・サンドバーグさんの書かれた「LEAN IN」を読んで、優れたリーダーでも同様の悩みをもっていることを知りました。悩みの根源は決して自分や他の誰かにあるのではなく、これまでの女性が果たしてきた社会的役割の途方もなく長い歴史にあるのだと腑に落ち、自分も周囲の誰も憎む必要がなくなりました。そこからは、ずいぶん気持ちが楽になり、周囲に何を言われようが、人類の歴史のせいだと聞き直して研究に取り組むめるようになりました。



研究を続けることの魅力はなんですか。

私自身が学生の時は興味一本でした。ここで止めるなんて嫌だと思いましたが、若者らしく自分自身がどこまでできるのかを知りたいとも思っていました。今では先は見えてるなと思いつつも、不思議とこの気持ちが消えることはありません。国内外で魅力あふれる研究者にたくさん出会えることも大きなモチベーションになっています。研究や技術の進歩は目ま



2005年3月豊橋技術科学大学院環境・生命工学専攻博士後期課程修了、2005年4月～名古屋大学エコトピア科学研究所機関研究員、2008年4月～京都大学農学研究科学術振興会特別研究員、2011年4月～豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所テニュアトラック助教、2013年10月～名古屋工業大学若手研究イノベーター養成センターテニュアトラック助教

ぐるしいですが、昔ながらの方法で環境中から自分がまだ出会ったことのない微生物を培養できた瞬間が今でも一番好きです。初めて自分で微生物を培養した修士の頃に戻ってわくわくできるご褒美の時間です。

研究の世界は公平で、努力が結果に結びつくことも魅力だと思います。国籍も性別も学歴も関係なく、結果が面白ければ認められるのが魅力です。また、技術を生み社会貢献につなげられることが工学の魅力だと思っています。学術研究と技術開発を両立できる研究者が、私の名工大における理想の研究者像です。

ご自身のワークライフバランスについてお聞かせください。

昔はよく仕事と育児の両立に悩むと、辞める・辞めないの究極の選択に陥っていました。仕事と家庭の状況をみてどう対処するかを淡々と考えられるようになったのは最近のことです。困難な状況においても、周囲と自分自身にとって最善のバランスを冷静に考えて判断するよう努めたいと思っています。

学生のみなさんへ一言お願いします。

名工大の学生は、能力が高いにも関わらず、自分自身の枠を決めてしまっているように感じます。ぜひ、少し無茶をしてでも自分の可能性に挑戦して欲しいと思います。研究であれ遊びであれ、自分が「面白い」とか「楽しい」と思えることにとことん没頭してほしいと思います。

INTERVIEW

女性が拓く工学の未来賞 奨励賞 前野万也香さん

前野万也香さんは、研究室配属時より、サリドマイドを主軸として研究を行っています。作用機構が完全には解明されていないサリドマイド機構の解明に迫る自己不均一化現象を発見し、科学分野のみならず、薬学的にも非常に有意義な知見を得ることに成功しています。モレキュラー・キラリティ 2013 シンポジウムでは、優秀ポスター賞を受賞、2014年には本学基金による学生研究奨励副学長賞を受賞、また、フランスの大学であるINSA Rouenとの共同研究も実り、エッフェル奨学金を獲得しました。フランスへの留学期間中にも、有用な化合物の新規合成法を開発するなど、今後の更なる活躍と研究成果が期待される研究者です。

奨励賞の受賞、おめでとうございます。

正直なところ、この賞がどういったものなのか説明を受けていなかったのでも「賞を取るチャンスを受けた」という程度の気持ちでした。実際に賞を頂いた時に、この賞の重みを実感しました。受賞に関しては素直に嬉しく思うと同時に、こんなに大きな期待をされたことは今までになかったのでも、良いプレッシャーにもなっているように感じます。これを励みに、研究活動に邁進したいと思います。

ドクターに進学しようと思ったきっかけを教えてください。

その時もっていた研究テーマにとっても愛着があり、このテーマを育てられるのは自分しかない、と思ったことが一番の理由です。また、博士進学予定年度から、名古屋市立大学との共同大学院が設置され、共同ナノメディシン科学専攻に進学可能になったことも理由の一つです。



ドクター進学において一番不安に思うことは卒業後の進路についてだと思いますが、当研究室には幸いドクターの先輩がおり、卒業後の進路に関しても決まらなかった人はいなかったのでも、その点に関してはあまり心配しませんでした。私自身、大学での研究が好きなので、しばらくはアカデミックの道を進もうと考え

ています。自分の研究分野を広げる為に、全く違うテーマの研究室へ行って勉強をしたいとも考えております。ですが、研究を続けていく間に企業で働きたいと思うこともあるかもしれませんが、道を狭めずにいきたいです。

研究活動を続けてきての苦勞や喜びほどのようなものがありましたか。

何をしても実験がうまくいかないという時期があり、そこから抜け出してモチベーションを持ち直すのには苦勞しました。今思えば無駄な実験は一つもありませんでしたし、むしろ今の研究にとっても役立っているなど、良い方向に繋がっています。喜びは、やはり研究成果が論文になったときです。自分の行ってきた研究が認められ世界中に広がることは、何物にも代えがたい喜びです。

どのような研究者を目指していますか。

童心を忘れない研究者です。以前、女子中高生に化学実験を指導する機会があり、実験の待ち時間中に研究室を見学してもらいました。その時の彼女たちのキラキラした顔を今でもしっかり覚えてます。どんなものにも興味津津で、私たちの説明を一生懸命聞いてくれる姿が本当に眩しく見えました。研究を続けているとどうしても、こういった感情に乏しくなることがあると思います。興味があることに興味を示すのではなく、何にでも感化されるような純粋な子供心をずっと持っていたと考えています。

ご自身のワークライフバランスについてお聞かせください。

研究室にこもりきりです。今はそういう時期なのだと考えていますし、自分で選



2011年3月名古屋工業大学工学部第二部物質工学科卒業、2013年3月名古屋工業大学大学院工学研究科未来材料工学専攻博士前期課程修了、2013年4月同大学院工学研究科共同ナノメディシン科学専攻博士後期課程入学、2014年9月～2015年3月フランスINSA Rouenへ留学、2015年日本学術振興会特別研究員採用

び決めて進んできた道なので、しんどいと思っても後悔をしたことは一切ありません。こう言うワーカホリックだと思われるかもしれませんが、そうではなく、今の自分の生活がたまたまこうなっているだけなのだと考えています。もちろん、一日一日のワークライフバランスの確立は非常に素晴らしい事だと思いますが、一生という長いスパンで見れば私の生活スタイルも悪くはないと思います。意欲があって元気な時はたくさん働いて、疲れたときは息抜きをするといった感じで



学生のみなさんへ一言お願いします。

まず、色々なものに興味を持ってください。それから研究室配属時、一番初めてもらった研究テーマを全力で好きになって下さい。興味を持って好きになるとする力が皆さんを動かす原動力になり、様々なチャンスを引き寄せる引力になると思います。好きだけじゃやっていけない、なんて考えは捨ててみてください。意外と何とかなることがたくさんあります。

INFORMATION お知らせ

女性研究者研究活動支援事業 シンポジウムを開催いたします

ものづくり愛知における女性の活躍推進に向けた取組について

日 時： 1月13日(水) 13:00~16:00 (12:30 開場)

場 所： 4号館1階 ホール (予定)

基調講演： 堀井奈津子氏 (愛知県副知事)

「ものづくり王国愛知における女性の活躍推進に向けた取組について」

講 演： 我妻三佳氏 (日本 IBM 株式会社 IBM セキュリティ
セキュリティ・サービス・デリバリー 理事)

「企業における女性のキャリア形成の現状」

ファシリテーター

パネルディス
カッション： 山下啓司 (本学大学院教授・キャリアサポートオフィス長)

コメンテーター

武藤敦子 (本学大学院助教)

パネリスト

トヨタ自動車(株)・トヨタホーム(株)・

(株)ノリタケカンパニーリミテド・

リンナイ(株) [予定]

ものづくり王国といわれる愛知県では、今後、さらに優秀な工学専攻の女子学生を確保するために、女子学生への支援も課題の一つとなっています。

このシンポジウムでは、前半に基調講演として、愛知県副知事の堀井奈津子氏から、愛知県の女性の活躍推進に向けた取組について講演いただきます。続いて、企業における女性のキャリア形成の現状に関して、日本 IBM 株式会社 IBM セキュリティ セキュリティ・サービス・デリバリー理事の我妻三佳氏に講演いただきます。後半のパネルディスカッションでは、製造業技術者、ライフイベント中の在職者、本学教員、本学 OG を迎え、女性研究者や技術者がキャリアを形成していくために各企業が行っている取組を紹介いただき、学生が、在学中に学び、行動しておくべきことをともに考えていきます。

産休・育休復帰セミナーを開催いたします

日 時： 1月20日(水) 11:00~12:00

場 所： 11号館3階
i-cafe (男女共同参画推進センター内)

対 象： 本学構成員で参加を希望される方
(特に妊娠・育児期女性やその上司、妊娠・育児期の妻を持つ男性、等)
※子連れでの参加も可能です。ご希望の方は託児サービスもご利用いただけます(無料)。

申込方法： 氏名、所属、職名、託児サービス希望の有無、ランチ会参加の有無を男女共同参画推進センター(菊池)までご連絡ください。

申込締切： 1月12日(火)

男女共同参画推進センターと人事課との共同で、教職員の皆様に対して本学の出産・育児の支援を広く周知するため、出産・育児支援制度に関する説明会を行うことになりました。

説明会では、仕事と育児の両立支援に対するご要望やご意見をお伺いしたいと考えています。

また、説明会終了後には、育児・復職に関する悩みや不安を参加者やWLB相談員と話す場としてランチ会を開きます。ご都合のつく方はぜひ昼食をお持ちの上ご参加ください。

名工大女子学生団体 彩綾～SAYA～は、名工大女子が学科や学年をこえて繋がり、私たちが楽しく輝ける場を作ることを目的とし、2014年10月に結成されました。女子学生が学校生活を楽しく過ごしたり、女子学生同士の交流の場を増やしたりできるよう、女子学生向けの情報誌の発刊や、イベントを行ってきました。今回は、代表が交代するに当たり、これまでの1年間を振り返り、また、これからの彩綾～SAYA～について語ってみたいと思います。

代表 土屋一三子（機械工学科4年）

彩綾～SAYA～は10月でめでたく一周年を迎えました。発足当初は二人のメンバーから始まった彩綾～SAYA～も、新メンバーとして一年生を数名むかえ、様々な学年・学科の理系女子がメンバーとして現在活動しています。

9月に行った夏合宿では、三代目の新代表が決まりました。活動方針の学科・学年を越えて理系女子を繋ぎ、理系女子として輝くべく、今後とも様々なイベントを企画・運営していきたいと思っています。

前期の彩綾～SAYA～は、“繋ぐ”をキーワードに新入生歓迎会や学内での流しそめん会などのイベントを企画してきました。この結果、新入生だけでなく、学年・学科を越えて様々な名工女子と交流を持つ事ができました。そして、企画を通し、メンバー同士の繋がりもより一層強くなったと思います。また、オープンキャンパスにも参加させて頂き、未来の名工女子たちとの交流ももてました。名工女子の先輩として、たくさんの未来の名工女子の前でプレゼンテーションをさせて頂き、自身を振り返るとともに、名古屋工業大学の魅力や理系女子の魅力についてお話しする事ができ、良い経験となりました。



後期は、もう一つの活動方針である“理系女子として輝く”をキーワードに、主に理系女子のキャリアについて考えるイベントを企画しております。どのプログラムに進むのか、院進学が就職活動か、など多くの選択肢がある中で、より良い選択が出来るよう、体験型で情報収集ができるようなイベントを現在企画中です。また、女性エンジニア・研究者として働くとはどういう事なのか、何を考えるべきなのか、などキャリアを長い目で考え、選択が出来るような、イベントのプログラムも企業様とディスカッションを行い、共同企画しております。

今迄の活動を通して、先輩の少ない女性エンジニア・研究者は非常に前例が少ない事が分かりました。様々な機会を利用・提供し、自身のキャリアを満足出来るものにするべく、製造業で働く女性のお話を聞く事で、たくさんのヒントを得ていこうと思います。また、その情報を自身でとどめる事無く、周りに発信していく事で、また新しい動きが生まれると思います。ここ迄くるのにはたくさんの方にご協力頂いた事を、この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も彩綾～SAYA～をよろしくお願いいたします。

新代表 古山実季（電気電子工学科3年）

彩綾～SAYA～は発足して1年余り経過し、メンバーは20人となりました。また、活動内容も、当初は大学内の規模のものばかりでしたが、企業にご協力いただくものや、他大学を巻き込んだものなど、徐々に活動の規模を大きくしています。彩綾はこの1年余りの活動を通し、新しいメンバーを迎え、少しずつ学内での認知度も上がってきて、団体として活気付いてきています。



私は、去年の12月頃から彩綾へ参加しはじめました。そして今年10月から代表としてのお仕事を現代表 土屋一三子さんから少しずつ引き継いでいます。その中で、自分の力不足を感じることも多くあります。そのたびに、先輩方が手を差し伸べてくださり、先輩方の偉大さを痛感する日々です。これから、先輩方とともに積み上げてきた土台を大切にしながら、新しい世代のメンバーと共に彩綾を盛り上げていきたいと思っています。どうか、これからも彩綾の活動を見守って頂きたいと思っています。

私が所属している電気電子工学科の3年生は150名近くの学生がいますが、そのうち女子は4名しかいません。入学当初は、女子が極端に少ない環境で上手く友人関係を築くことができず、寂しい思いをする事もしばしばありました。そんな中で、友人の紹介で彩綾の存在を知りました。現在では、彩綾に参加することで他学科・他学年に友人の輪が広がり、以前よりも充実した日々を過ごすことができていると思います。毎週火曜日の会議も、女子会のつもりでいつも楽しみにしています。

こうした経験から、彩綾が、名工女子にとっての友人作りのきっかけや居場所そのものであるということを実感しました。現在の活動内容は、就職支援やキャリア形成を目的としたものが多くを占めますが、彩綾が友人・居場所作りにおけるサポートという一面も大切にしていきたいと思っています。そして、本学の女子学生が、学業や就職だけでなく、大学生活にも充実感を持って卒業していきけるような環境を作っていきたいと思っています。